

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げで書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

() 月 日 曜日

自然のエネルギー

宮浦小学校 五年 福島 彩葉

私には、お気に入りの写真がある。それは、
太鼓岩で兄や姉とジャンプしている写真だ。
その写真を見る度に、太鼓岩から景色をなが
めながら、

「すごくきれい。」

と目を細めて言っていた兄の様子を思い出す。

兄は、島外に住んでいるので、屋久島の自
然がともうらやましいと言っている。白谷

雲水峡でさるの鳴き声が聞こえてきたり、お
もしろい形の木を見たりする度にうれしそう
に写真を撮っていた。

白谷雲水峡に足をふみ入ると、空気が一
気に変わるしゅん間がある。肌に当たる冷た
い空気、こけの匂い、水の音、全身で感じる
そくそくが私は好きだ。となりにいる兄もき
つと同じことを感じていると思う。

「彩葉、コシカの宿」だった。

兄が一本の杉を指差して言った。私と同じ五

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

年生の女の子が名前を付けたそうだった。
 「かわいい名前だね。シカが雨宿りしていたらおもしろいのに。」
 私はそう言っで、シカになった気分が木の中に入っでみた。
 私は、ヤクシカが好きだ。ヤクシカにあっては、
 「小さい。かわいい。」
 と思わず声が出た。奈良のシカもかわいいか？
 たが、体が大きく、おそろおそろえさをあげた。
 た記おくがある。でもヤクシカはちがう。小さい体に、クリクリとした丸い目。白いおしり。全てが愛らしく、心がほんわかする。
 ヤクシカは「神様のつかい」と言われているらしい。私は、その話を聞いてなっ得した。なぜなら、ヤクシカのりんとした姿は、もののけ姫のシシ神様に似ているからだ。
 白谷雲水峡のこけむす森に着くと母が、「シシ神様が出てきそうだね。」
 と言った。こけむす森は、その名の通り、こ

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましよう。
2 段落の初めは、必ず一字下げで書き始め、段落ごとに行を変えましよう。

（ ）月 日 曜日

けにおおわれた緑色の世界が広がっている。
あまりにもげん想的でシシ神様がいるのも信
じたくなる。しばらくながめていると、こけ
にもいろいろな形や色があることに気が付い
た。小さな杉の木のようなこけ。白い小さな
花を付けたこけ。絵の具から出したばかりの
ような黄緑色で、そつとさわるとふわふわし
てとても気持ちがいい。

上からは、キラキラとした木もれ日がふっ
てきた。「きれいだな」と見とれていると、

「ピッピ、ピ、ピッピ、ピッピ、ピッピ、ピッピ」

ときれいな鳥の声も聞こえてきた。

「屋久島に来ると元気になる」

と父が言っていた。屋久島は自然のエネルギー
ーが感じられるそうだ。私も、屋久島の自然
からエネルギーをもらって、これからも屋久
島のいいところを見つけていきたい。

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましよう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましよう。

(不許複製)

